

〈小学校英語〉

進んで英語を使おうとする態度をはぐくむ外国語活動の工夫

— オリジナル絵本作りを通して（第6学年） —

宜野座村立漢那小学校教諭 上 原 和 子

I テーマ設定の理由

グローバル化の急速な進展に伴い、文部科学省は平成15年3月『英語が使える日本人』の育成のための行動計画』を策定した。その中で、これからの英語教育の方向性として「英語でコミュニケーションができる」こと等を掲げ、英語教育改善のための行動計画が示された。世界的にみてもアジア諸国及び欧州において、国際的な共通語として英語教育が導入され、広がりを見せている。

新学習指導要領では「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。」ことを目標とし、外国語活動が新設された。

本年度に本校で実施した6年生へのアンケート結果では、大半の児童が「英単語や英語表現が分かる」、「ゲームが楽しい」と感じ活動しているが、一方で「英語を使うのが苦手」、「英語が難しい」との理由で進んで話すことや人前で発表すること等に課題があった。これらの原因として、英語を実際に使用する会話の場の設定が少なかったこと、互いの知らないことを英語で聞き合ったりする意味のある活動が少なかったこと等が考えられる。その結果、児童は英語を聞く、話す等に十分に慣れ親しむことができず、このことが発表に対して消極的となり、進んで英語を使おうとする態度をはぐくむことに繋がらなかったと考えられる。このような実態から、英語を聞く・話す場を多く設定することが大切であると考えた。

そこで、本研究ではオリジナル絵本作りを通して、児童が英語を聞く・話す場の設定の工夫を図ることで、英語に慣れ親しみ、進んで英語を使おうとする態度をはぐくめると考えた。方法として児童は、5W1Hの意味を知り、既成の絵本の話を読み、今までに学んだ語彙や表現を用いてグループでオリジナル絵本作成し、発表を行う。このような絵本を活用した取り組みは、次年度から配布される「英語ノート」に関連させた活動展開にも繋がると考える。絵本を活用することで、英語を聞く・話すことができ、この体験を通して発表することへの意欲に繋がり、進んで英語を使おうとする態度がはぐくまれるのではないかと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

外国語活動において既成の絵本を活用し、オリジナル絵本作成、発表するという体験を通して、英語に慣れ親しみ、英語に対する自信が付き、進んで英語を使おうとする態度がはぐくめるであろう。

II 研究内容

1 進んで英語を使おうとする態度をはぐくむとは

中央教育審議会外国語専門部会の答申(2007)では「小学校においては、小学校段階の子どもの柔軟な適応力を生かすことが有効である。基本的な単語や表現を用いて、英語で聞くこと、話すことなどの言語活動を実際に行ってみるにより、英語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ったり、言語や文化への体験的な理解を図ったりすること、併せて英語の音声や会話に慣れることが適当と考えられる。その際、英語に対する関心・意欲を高めるため、子どもの発達段階にふさわしい言語の使用場面を設定することが必要である。」と述べている。言語を聞く、話す場を設定し、言語活動を行うことで英語に慣れ親しむことができ、進んで英語を使おうとする態度に繋がると考える。

そこで、進んで英語を使おうとする態度をはぐくむとは、「基本的な単語や表現を用いて、英語で聞くこと、話すことなどの言語活動事項を実際に行ったり、英語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」と捉える。児童にとって、絵本の読み聞かせ、インタビューや発表等、必然的に英語を使って聞き合う場の設定を図ることで、児童は英語に慣れ親しむことができ、コミュニケーションを図ろうとする態度がはぐくめるのではないかと考える。

2 外国語活動に絵本を活用する有効性

(1) 外国語活動に絵本を活用する効果

高島英幸(2005)は、外国語活動に絵本を活用する有効性を「絵本の絵の効果である。絵は読者に多くの言葉を語りかけ、この言葉によって読者はイメージを膨らませていく。」「読み聞かせによる効果。絵本の読み聞かせは、子どもにとって、耳で言葉を聞いて、目で絵を読む活動である。」と述べている。

また松香洋子(2008)は、絵本を使った指導法の長所を以下の四つ挙げている(表1)。

表1 絵本を使った指導法の長所(松香 2008)

- | |
|--|
| ①強い動機や達成感が持てる。
②英語特有のリズムを身につけ、語彙が増やせ、内容を推測しながら理解する習慣が持てる。
③子どもの情緒の発達を促進する。
④異文化に興味を持たせ、その理解を促進する。 |
|--|

さらに、新学習指導要領(2008)における外国語活動の三つの目標は、「言語や文化について体験的に理解を深める。」「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。」「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。」である。本校6年生への事前アンケート調査においても、80%の児童が「絵本が好き」と答えており、低学年や幼稚園生への絵本の読み聞かせも積極的にやっている。また、オリジナル絵本の発表を聞く低学年の児童も、90%の児童が「絵本が好き」と答えており、6年生の読み聞かせを楽しみにしている。

そこで、児童の好きな絵本を外国語活動に取り入れることは、まとまりのある話を聞かせ、話の内容を児童との会話により理解させ、外国の文化について知り、絵本を題材に活動を設定することでコミュニケーションが図られ、英語特有のリズムやイントネーションに慣れ親しませるという点で、前述の目標と合致した活動と考える。

(2) 外国語活動に活用できる絵本について

外国語活動において、児童の知っている絵本を使い、英語で読み聞かせる際、絵本の内容を日本語と照らし合わせ、推測しながら理解でき、「英語ノート」のLesson8「オリジナルの劇をつくろう」に関連した活動として、劇・ペープサート・絵本作成等の多様な表現活動へ繋げることができると考える。

そこで、表2に書かれた英語を使った絵本の読み聞かせは、動物等が多く使われていること、Who・What・When・Where・Why・Howの5W1H表現の繰り返し等、今までに学んだ語彙も多いため内容が分かりやすく、絵本作り等に活用しやすいと考える。例をあげると、『Brown Bear Brown Bear What Do You See?』の中で、“What do you see?” “I see a ~.”という表現が繰り返し使われており、色や動物、体の部位も容易に知ることができ、作成の際ヒントにもなると考える。

表2 読み聞かせに有効な絵本

	題 名	英語表現	題 材
1	Eric Carle 『Brown Bear Brown Bear What Do You See?』	・What do you see? ・I see a ~.	・色 ・動物 ・体
2	Eric Carle 『The Very Hungry Caterpillar』	・What did you eat? ・How many are there? ・On~, Caterpillar ate through~.	・曜日 ・数字 ・食べ物 ・果物 ・チョウの一生
3	Eric Hill 『Where's Spot?』	・Where is ~?	・動物 ・家具 ・身の回りのもの
4	Mikiko Nakamoto 『What Can You Do?』	・What can you do? ・I can ~. ・Who is ~?	・動物 ・動作 ・自分ができること
5	Rozanne Lanczak Williams 『Who Lives Here?』	・Who lives in ~? ・Who eats ~?	・動物 ・昆虫 ・魚 ・場所

3 オリジナル絵本作成について

田中武夫(2003)は、「自己表現とは、自分の思いや考えを伝えること」と述べている。また、自己表現活動とは「生徒が自分自身で考えた新しい情報をやりとりする活動。やりとりする情報にどれだけ生徒自身が関わり、頭を悩ませたかが重要」と述べている。そこで、英語を「聞く」「話す」と

いう活動を組み、学んだ語彙等を使って「表現する」ようにしたい。

オリジナル絵本の作成を通して、言語活動の場を設定することでコミュニケーションを図ることができると考える。オリジナル絵本の作成、発表を通して、語彙や表現の定着を図るとともに自分の思いを伝える表現活動を行っていきたい。本研究での、オリジナル絵本の作成は、グループごとに作成した絵本の発表もあり、英語での絵本の内容を聞き手に伝えるという目的を持った学習になると考える。絵本を作成する手順として、本研究では、以下のように進めていく（図1）。

はじめに、手順1では、児童が取り組みやすくするために、4～5人のグループ編成を行う。グループで活動することで、協力してアイディアを出し合い、オリジナリティーあふれる楽しい絵本を作成できると考える。そして、より多様なアイディアを引き出すために、ペープサートや飛び出す絵本等を例示する。絵本を作成する際は、低学年への読み聞かせにも配慮して作成することで、挿絵やクイズ等、低学年に分かりやすい、より具体的な提示を行うようになると考える。

以上のことを参考に、手順2では児童自身が絵本のシナリオを作成し、手順3で個人で作成したシナリオをグループで練り合い、グループのシナリオを作成する。各グループには、児童が学んだ語彙や表現を用いることを伝えておく。また、絵本を作成している際も、ALTに“How do you say ～?”を児童が質問できるようにすることで、作成中もコミュニケーションの場が設定できる。シナリオを作成し、手順4では、絵本を作成していく。絵は分かりやすいように描くことを伝え、各自1ページを作成し、一人一人に役割を持たせるようにする。絵本の大きさは四つ切り程度とする。児童一人一人が役割を持つことで、全員が参加でき、達成感を共有する活動ができると考える。

最後に、手順5では、ALTと協力して発表の練習を行う。また、相手が分かりやすいように、絵を指す等のジェスチャーを取り入れるよう伝えておく。

4 オリジナル絵本活用における聞く・話す場の工夫

本研究では、既成の絵本の内容理解を図るために、事前に絵本の内容に関する5W1Hについて知る。5W1Hを定着させるために、定型文等を使用して内容理解を深める。さらに、絵本を活用した工夫として、聞く・話す活動を行う六つの場の設定を図る。場の設定を図ることで図2のような単元構成が可能である。

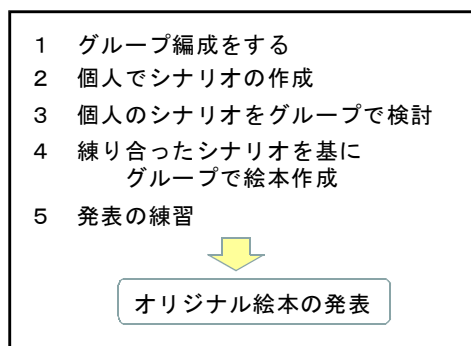


図1 オリジナル絵本作成の手順

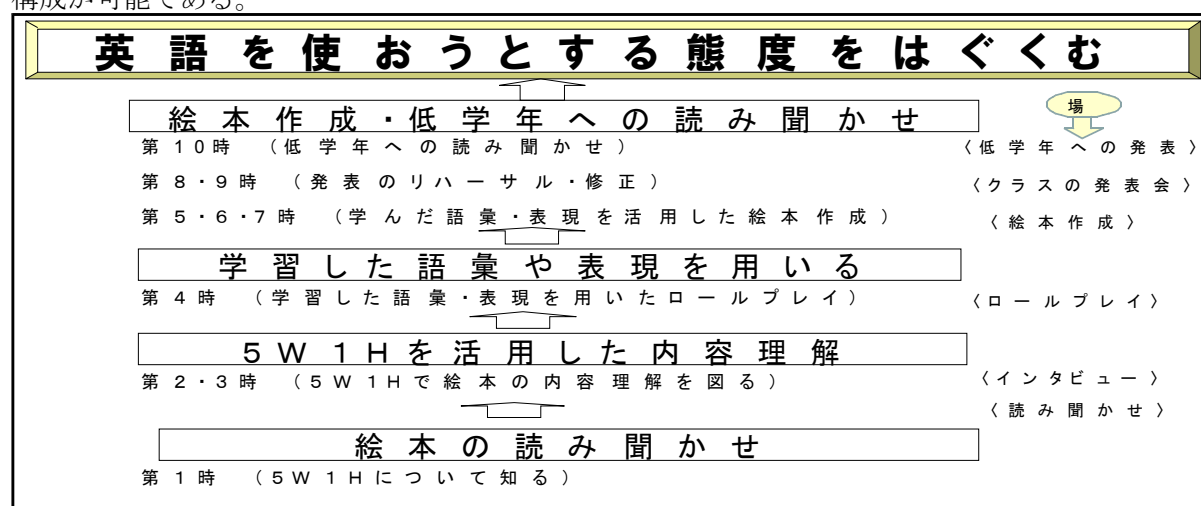


図2 場の設定を図る単元の流れ

まず、既成の絵本の読み聞かせで英語の音声に慣れ、絵本の内容等に関連させた5W1Hを活用した質問を行うことで、児童との自然な会話を通して、同時に絵本の内容理解を図ることができると考える。次に、既成の絵本で学んだ語彙や表現を使ってインタビューを行い、互いの情報を共有する。その上でロールプレイを行うことで、学んだ語彙や表現の定着を図ることができる。そして、絵本を作成する。作成する際には、学んだ語彙や表現を使うようにすることで、語彙や表現の定着を図りたい。クラスの発表会では、児童は学んだ語彙や表現を使って発表することを通して達成感を持ち、英語に慣れ親しみ、発表した絵本の内容等、学級での共有化も図ることができる。最後に、作成した絵本を

低学年児童へ読み聞かせすることで、聞き手に分かるように工夫して発表を行う「相手を意識した表現活動」ができると考える。発表することで、実際に英語を使うことができ、達成感を味わうことができる。また、低学年児童は発表を聞くことで、外国語活動への動機づけに繋がると考える。このように、英語を聞く・話すコミュニケーションの場の工夫を設定した言語活動を通し、英語に慣れ親しみ、進んで英語を使おうとする態度をはぐくむことができると考える。

Ⅲ 指導の実際

1 単元名 「Let's Make a Picture Book and Read it」

2 単元目標

- ・絵本を通して英語に関心を持ち、オリジナル絵本を作ることができる。
- ・グループで協力して、低学年が楽しめるように工夫して伝えようとする。
- ・絵本の語彙や英語表現を知り、慣れ親しむ。

3 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語・文化への気づき
①進んで英語を使い、先生や友達とコミュニケーションをとろうとしている。 ②友達と協力して意欲的に絵本作りに取り組もうとしている。	①学んだ語彙や英語表現が言える。 ②学んだ語彙や英語表現を使って、ロールプレイや絵本の発表ができる。	①絵本の内容について理解できる。 ②友達の発表内容について理解することができる。 ③5W1Hについて知る。	①英語の独特のリズムやイントネーションに慣れ親しむことができる。

4 単元の指導と評価の計画（10時間）

時	学 習 目 標	学 習 活 動	評 価 規 準				評 価 資 料
			関	表	理	言	
1	・5W1Hについて知る。	・5W1Hについて知る。	①		③		行動観察 ふり返しシート
2	・『The Very Hungry Caterpillar』の話の概要を理解する。	・話を聞き、5W1Hの質問に答える。 ・絵本に出てくる語彙や英語表現の練習。			①	①	行動観察 ふり返しシート ワークシート
3	・『What Can You Do?』の話の概要を理解する。	・話を聞き、5W1Hの質問に答える。 ・絵本に出てくる語彙や英語表現の練習。			①	①	行動観察 ふり返しシート ワークシート
4	・学んだ表現を使って簡単なロールプレイをする。	・学んだ英語表現を使って簡単なロールプレイをする。	①	①			行動観察 ふり返しシート
5 6 7	・オリジナル英語絵本を作る。	・これまでに学んだ絵本の内容を参考にして、学んだ語彙や英語表現を使ってオリジナル絵本を作成する。 ・オリジナル絵本の表現練習	②	②			行動観察 ふり返しシート シナリオシート
8 9 本時	・作成したオリジナル英語絵本を聞き手にわかりやすく発表する。	・グループでオリジナル絵本を発表する。 ・互いに絵本の良い点、工夫した点を述べる。 ・改善点を中心に練習する。		②	②		行動観察 ふり返しシート アドバイスカード
10	・作成したオリジナル英語絵本を改善し、聞き手に前時よりもわかりやすく発表できる。	・各グループ、低学年が理解できるように工夫してオリジナル絵本を読む。	①	②			行動観察 ふり返しシート

5 本時の指導（9／10）

(1) 本時の活動名

「Let's Read the Original Picture Books」

(2) 本時のねらい

- 学んだ語彙や英語表現を活用し、グループで協力して英語絵本の発表ができる。
- 友達の発表を聞き、工夫しているところにきづいたり、アドバイスしたりすることができる。

(3) 授業の仮説

オリジナル絵本の発表を通して、英語を使えたことにより成就感・達成感を味わい、進んで英語を使おうとする態度がはぐくまれるであろう。

(4) 本時の評価規準

本時の評価は、「表現の能力」の評価を行う。その際の判断基準を下記のようにA「満足できる」、B「おおむね満足できる」、C「支援、手立てが必要」とする。また、教師による行動観察、児童の振り返りシート等を評価の資料とする。

学習活動	評価規準 (評価の観点)	判断基準			評価資料
		A	B	C (支援)	
・グループで協力してオリジナル英語絵本の発表をする。	・学んだ語彙や表現を使って、絵本の発表ができる。【表②】	・学んだ語彙や表現を取り入れて、発表方法を工夫して積極的に伝えようとしている。	・学んだ語彙や表現を取り入れて、発表方法を工夫して伝えようとしている。	・友達と協力して、シナリオをみながら発表できるようにする。	・行動観察 ・振り返りシート ・アドバイスカード

(5) 本時の展開

過程	児童の活動	教師の支援 HRT (H) ALT (A)	☆留意点○評価 ★教具
導入 5分	①あいさつ (greeting) Good morning, Kazuko sensei Scott sensei. I'm fine/great/happy It's December 16th. It's Tuesday. It's sunny/cloudy/rainy ・アイスブレーキング ②ルール確認 (explain the class rule) Respect others! Listen carefully! Make eye contact! Speak up! Don't be shy! Mistakes are OK!	(H) Good morning, everyone! (A) Good morning, everyone! (A) How are you? (A) What is the date today? (A) What day of the week? (A) How is the weather? (H) Let's enjoy English lesson together! O.K! (H) 英語ルールの確認をしましょう。 英語係さん、お願いします。 Respect others! Listen carefully! Make eye contact! Speak up! Don't be shy! Mistakes are OK!	☆cheerfully 元気よく ☆一人一人の児童の様子を把握するようにする。 ★カード ★掲示物(ルール)
展開 33分	③本時の活動の確認 Listen carefully! Make eye contact! Don't be shy! Mistakes are OK! Say Good job発表したらみんなで褒める ④発表会 (MC) Let's enjoy picture book (Quiz) group, please. Thank you very much. Next (Anpanman) group, please. Thank you very much. Next (Momotaro) group, please. (発表グループ)	(H) 絵本発表のリハーサルをします。 O.K, everyone, Let's read a picture book. 声の大きさや、リズムに気をつけて協力して発表すること。 (Speak loudly/ enjoy!) 聞き手に分かる内容、伝える工夫をして下さい。	★掲示物 ☆司会の児童の支援をする。 ○学んだ語彙や表現を使って、自分の考えなどを先生や友達に伝えようとしている。【表②】

	We are().Are you ready? O.K Let's start! demonstrate Thank you for listening. 〈発表する側〉 工夫した点を示し、発表する。 〈発表を聞く側〉 それぞれのグループの良い点、工夫している点、改善点に気づく。 ⑤お互いにアドバイスし合う。 良かった点、改善点を発表させる。 What is a good point and weak point of each group? Please write your advice. Say your advice to everyone, please. Let's put your advice on the blackboard. ⑥アドバイスをもとに、改善部分話し合う。 ⑦改善点を中心に練習する。 Talk about your weak points, Let's practice again.	(H) Good job! (A) Good job! (H) 支援する (A) 支援する 日本語でコメントを求める ・良かった点と改善点を書いて下さい ・良かった点と改善点を発表して下さい ・アドバイスカードを貼って下さい (H) 支援する (A) 支援する	★付箋紙 (アドバイスカード) ☆良かった点や改善点は理由を具体的に書くようにする ☆ALT/HRTは各グループごとに支援する
まとめ 7分	⑧まとめ 振り返りシートを書く complete a review worksheet ⑨感想の発表 Thank you see you soon Good bye	(H)今日の活動を振り返りましょう。 (H)How was the class today? (H)次の時間は、低学年の皆さんの前で発表してもらいます。 Let's try! Do your best! (H)That's all for today.	★振り返りシート

6 仮説の検証

研究仮説を「外国語活動において既成の絵本を活用し、オリジナル絵本を作成、発表するという体験を通して、進んで英語を使おうとする態度がはぐくまれるであろう」とし、研究を進めてきた。本研究において、授業実践を通して英語を使う場の設定を図ってきた。そこで、既成の絵本や、それを題材とした活動と関連させながら、その効果と児童の変容を検証した。検証方法として、授業前後のアンケート調査結果、毎時間の振り返りシートやワークシート、児童の発表及び感想、ビデオによる行動観察により分析・考察していく。

(1) 外国語活動における児童の意欲について

外国語活動への意欲が高まったかを検証するアンケートでは、「外国語活動が楽しい」と肯定的に答えた児童が、事前は65%であり、事後には、100%となっている（図3）。楽しい理由として、「絵本を発表して、前より英語が話せるようになったから。」「自分たちでクイズを考えたりして、英語が少し分かってきたから。」等の回答があった。「児童の好きな既成の絵本の活用」、「グループでアイデアを出し合ったオリジナル絵本作成」、「クラスや低学年への発表という活動の中で、児童が取り組みやすいよう自然に英語を聞く・話す場を設定した」等の結果、言語活動を通してコミュニケーションの場を楽しく感じ、外国語活動に対する興味・関心が高まったと考える。

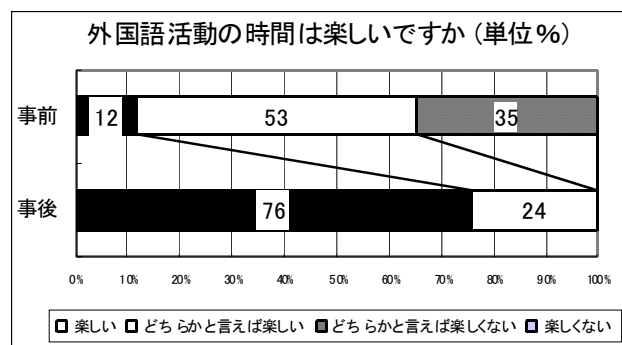


図3 外国語の時間は楽しいですか

(2) 進んで英語を使おうとする態度をはぐくむことができたか

① 既成の絵本を活用した聞く・話す場の設定の有効性

既成の絵本『The Very Hungry Caterpillar』『What Can You Do?』を活用して6年生に読み聞かせ、インタビュー、ロールプレイの活動を行った。読み聞かせで「絵本の内容が分かった」と回答した児童は、94%であった(図4)。このことは、挿絵やジェスチャー、読み聞かせの後に5W1Hを活用した質問を行うことで、絵本の内容理解を図ったためと考える。教師の質問に、児童は挿絵やジェスチャー、5W1Hをヒントに答えていた。児童が知っている絵本を活用したこと、活動の前には5W1Hを活用した復習を行ったことも内容理解に繋がったと考える。内容理解ができたということは、しっかり聞くことができ、英語特有の音声にも慣れ親しむことができたと考える。

また、既成の絵本で学んだ語彙や表現の定着を図るためのインタビューやロールプレイでは、英語を使い楽しく活動している児童の姿が多く見られた。インタビュー時は、全員が質疑応答することができた。活動後の感想では、「三人に英語で質問することができた。」「『何を食べましたか?』を聞くのが難しかったが、質問することはできた。」「友達の得意なことが分かった。」等が述べられていた。このことは、事前に児童が、ワークシートに一週間に食べた物や、得意なことを絵や日本語で記入していたことと、進んで話すことに消極的な児童には、教師と一緒に質問するようにしたことが考えられる。また、進んでALTにインタビューをしている児童も見られた。ロールプレイでは、使いたい語彙や表現の言い方をALTに質問しているグループも見られた。これらの活動は、学んだ語彙や表現を使って、実際に児童が食べた物や、得意なことを聞くというコミュニケーション活動を通して、グループで表現する内容を考え、そこから様々なアイディアを生むことに繋がった。またロールプレイ発表の際にグループで行うことで、一人一人の緊張も和らぎ、児童は進んで活動に取り組むことができ、学んだ語彙や表現の定着にも繋がった。絵本を活用した場の設定は効果的であったと考える。

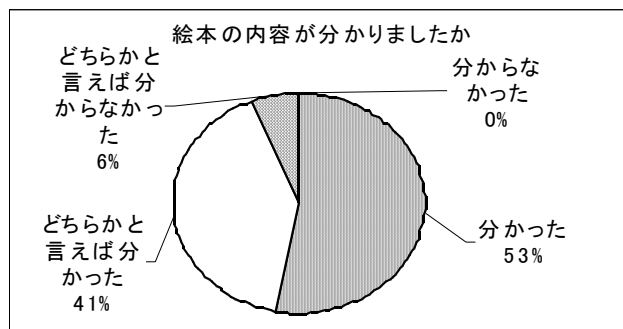


図4 絵本の内容理解ができたか

② オリジナル絵本作りを通した聞く・話す場の有効性

オリジナル絵本作り・表現の練習等の活動を行ってきた。「スコット先生に、今日は英語で話すことができた。」「Picture Bookを作って、とても楽しかったし、色々な英語の単語を覚えられてよかったです。」等の感想があった。このことは、オリジナル絵本に出る表現について、児童には「How do you say ~?」とALTに質問するよう、英語を使う場の工夫を図ったこと、児童はALTに聞いて、話す練習をすることで、絵本作りの3時間目には絵本の内容表現の仕方ができることに繋がったと考える。このことから、シナリオ作成や表現の練習を通し、児童は学んだ語彙や表現を使って意欲的に活動したと考える。

その後、活動の第8・9時には三つのオリジナル英語絵本のクラス発表会を行った。各グループ、英語だけでなく、絵やジェスチャーも使い「分かりやすく発表できた」と肯定的に回答した児童は、第8時で82%、第9時で100%であった(図5)。このことは、各グループが発表の工夫を行ったためと考える。グループの工夫した点を挙げると、「Who am I?」のグループは、3つのヒント(絵)とジェスチャーを交え、「Momotaro」グループは、オリジナルの話を作り、絵を指しながら等、「What do you eat?」のグループは、ペーパーサートを使い、『The Very Hungry Caterpillara』のCaterpillaraをアンパンマンに変え、発表を行った。表3は発表

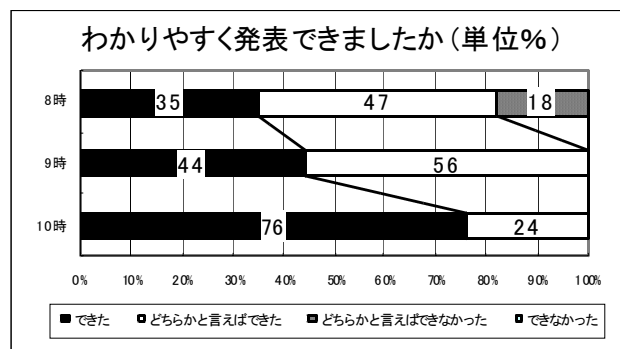


図5 分かりやすく発表できたか

したシナリオである。児童は、同じ表現を使うことで、表現の定着に繋がったと考える。司会の児童は、英語と日本語での進行を行い、各グループ発表前後には“We are Momotaro”, “Thank you for listening.”等、英語で表現し、聞く側も発表の後には“Good job.”と皆でほめ合えるようにした。さらに、この発表会で児童相互の評価によって、各グループの良い点、改善点をみつけ、「大きな声で動作も入れて分かりやすかった。」「ゆっくり言った方がよい。」等の意見が児童たちから出され、相手を意識した発表をするねらいが捉えられてきたと考える。また、各グループとも改善点を中心に練習している姿がみられた。児童たちは、始めは緊張している様子であったが、学級での発表会を通し、改善点の修正を行うことで、英語やジェスチャー等を使うことが多くでき、相手に分かりやすく伝えようとする工夫や態度に繋がった。聞く・話すという絵本作りを通した活動は有効であったと考える。

表3 発表したシナリオの一部

“Anpanman was very hungry.”
 “On Monday, Anpanman ate through two melons.”
 “On Tuesday, Anpanman ate through four tomatoes.”
 “On Wednesday, Anpanman ate through a watermelon.”
 “On Thursday, Anpanman ate through two turnips.”
 “On Friday Anpanman ate through a fish.”
 “On Saturday Anpanman ate through three steaks.”
 “On Sunday Anpanman ate through four sandwiches.”
 “Then Anpanman was very very big !”

③ 低学年への絵本の発表で得られた効果

第10時には、低学年へ絵本の発表を行った。6年生全員が「低学年の児童に分かりやすく発表できた」と回答している(図5)。また、発表終了後に低学年児童に行ったアンケートでも、「オリジナル絵本のお話が分かりましたか」の質問に、「分かった」と回答した児童は、91%であった(図6)。オリジナル絵本の発表をする場所を3か所設定し、低学年の児童がローテーションで、時間を区切って聞けるようにした。発表では、前時よりも声が大きい児童やジェスチャーを交え堂々と発表している姿が見られた。また、オリジナル絵本を読んだ後に、内容について質問をしたり、低年学の子からの質問に答えている姿も見られた。実際に聞く相手を前にし、ジェスチャー等で表現を工夫することで、児童は分かりやすく発表できたと考える。表4は、6年生と低学年児童の感想である。感想からも、低学年を意識して、分かりやすく発表できたと考える。また、友達の良さに気づいたり、自分が以前よりも英語やジェスチャーを使った発表ができるようになった、伝わったという自信や達成感を持つことができたと考える。低学年児童にとっては、発表を聞くことで外国語活動への動機づけに繋がることができたのではないかと考える。

このような活動を通して、進んで人前で話すことや発表することに課題があった児童は、「英語を進んで話すことができる」と

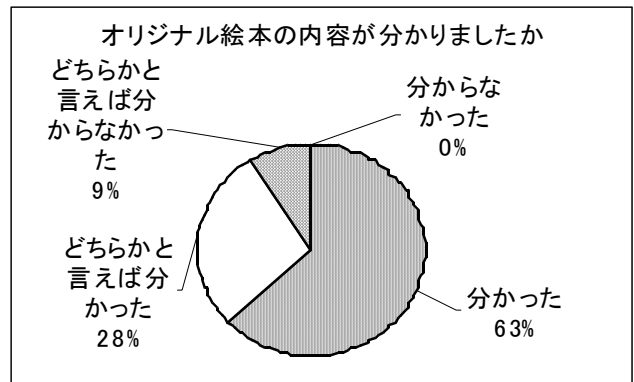


図6 オリジナル絵本の内容理解ができたか

表4 6年・1年・2年児童の感想

6年生の感想
・S君が、昨日のクラスの発表よりもスラスラと英語で発表していた。 ・低学年に、意味がわかってもらってよかったです。 ・低学年に伝わったときは、うれしかったです。 ・低学年の前で発表して、「英語が上手。」と言われよかったです。また、動作が大きくできてよかったです。 ・低学年の前で発表して、英語で伝わってとてもうれしかったです。Sさんや、Aさんも英語がうまくなっていて、すごいと思いました。 ・英語が少し好きになりました。
1年生・2年生の感想
・6年生は、英語が上手で聞きやすかったです。 ・6年生が、お話を英語で言ったので、すごいと思いました。私も英語が話せるようになりたいです。 ・とても楽しかったので、また読んでもらいたい。

答えていた30%から、71%に増加している（図7）。また話すときに「ジェスチャーを使う。」「ゆっくり話す。」等、相手に分かりやすい表現を意識した回答もあった。さらに、進んでA L Tに挨拶したり、話しかける児童や、教師が“Here you are.”と言いながら振り返りシート等を配ると、“Thank you.”と答えながら受け取る姿もみられるようになった。間違えても良いということや、グループ活動を取り入れる等、英語を使う場を多く設定することで、英語に慣れ親しみ、進んで話す態度に繋がったと考える。

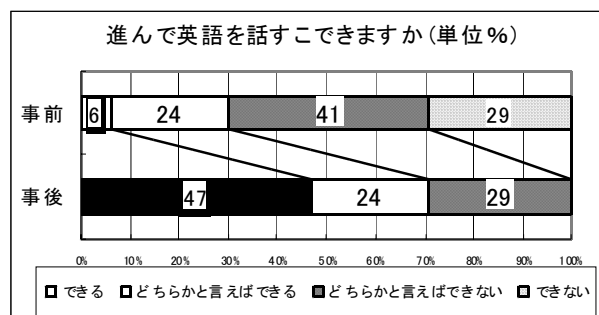


図7 進んで英語を話すことができるか

また、「英語での発表をやってみたい」と肯定的に回答した児童は13%から、事後では70%と増加している（図8）。発表したい理由として、「今よりもっと英語が上手になりたいから。」という学ぶ意欲が生まれた。また「英語で発表をして楽しかったから。」という皆に認められた充実感も得られたと考える。さらに、「大きくなったら英語を使うかもしれないから。」との将来役に立つ等の回答もあった。クラスの発表会、低学年児童への発表を通して伝わった達成感や英語に対する自信が付き、英語で発表したいという積極的な気持ちになったと考える。また今度は長い絵本を作って発表したい。」「今よりもっと楽しい絵本を作りたい。」「1年生から5年生にも英語を教えたい。」「家族の人にも読んであげたい。」等の今後の抱負も聞かれ、発表を通じた活動は効果的であったと考える。

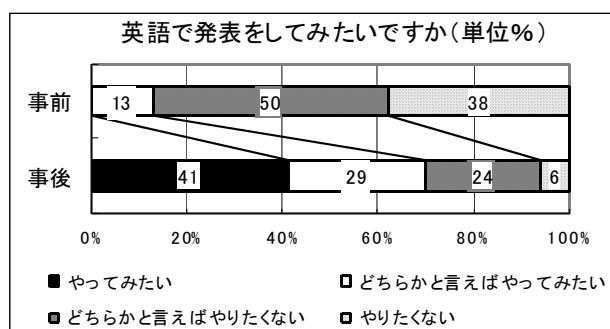


図8 英語での発表について

IV まとめと今後の課題

本研究は、「英語を使おうとする態度をはぐくむ」をテーマとし、オリジナル英語絵本を活用した場の設定の工夫を図り、研究を進めてきた。検証の結果、英語に慣れ親しみ、英語を使おうとする態度がはぐくまれたと考える。また、英語で発表したい、もっと英語を上手になりたいという意識の変容も見られた。このことから、オリジナル英語絵本を活用した活動は、英語を使おうとする態度をはぐくむ工夫として有効であったと考える。以下、本研究における成果と課題をまとめる。

1 成果

- (1) 英語を聞く・話すコミュニケーションの場を設定し、工夫することにより、児童は英語に慣れ親しみ、進んで発表する姿勢が見られ、進んで英語を使おうとする態度をはぐくむことができた。
- (2) グループでオリジナル絵本を作成し発表することによって、多様な表現や、聞き手を意識した活動ができた。
- (3) 絵本を活用したことによって、外国語活動への興味・関心を高めることができ有効な活動であった。

2 課題

- (1) 活動の充実を図るため、「英語ノート」と関連づけた指導計画を作成する必要がある。
- (2) 児童が、意欲的に取り組めるための指導の工夫・改善を考えたい。
- (3) 既成の絵本を活用し、児童の興味・関心を学んだ語彙や表現と組み合わせた指導の工夫を行いたい。

〈主な参考文献〉

安彦忠彦 監修 2008 『小学校学習指導要領の解説と展開 外国語活動編』 教育出版
 文部科学省 監修 2008 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』 東洋館出版社
 影浦攻 編集 2007 『これでできる小学校英語必修時代の授業4』 明治図書

